

金ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

2022/04/25号

一般社団法人日本貴金属マーケット協会 池水雄一



【ゴールドマーケットの現状】

円建てゴールド8174円歴史的な高値更新

SPDR Gold Shares円建価格



ゴールドとドルインデックス



先週もまた円建てゴールドの歴史的な高値は更新されました。19日火曜日に8173円をつけてそれが歴史的な高値となりました。ドル円はその後129.39まで上昇、ドル建てゴールド、ドル円ともに週前半は大きく上昇、その結果がこの最高値でしたが、ドル建てゴールドは2000ドルまではあと3ドル弱と及ばず、ドル円も130円にあともう少しというところで、さすがに高値警戒感からの利食い売りもあり、相場は週前半で頭をうち下落へと転じました。パウエルFRB議長がIMFでのパネル討論会で、5月と6月のFOMCとともに0.5%づつの金利上げが適切であると発言、インフレに対してしっかりと対応することを強調、*"Inflation is much higher now and our policy rate is still more accommodative than it was then so it is appropriate, in my view, to be moving a little bit more quickly."*と発言し、まさにこれは先週このレポートに書いた「遅きに失したFRBの金利上げ」当の本人が認めているということにほかなりません。今後FBBの金利上げは今年は2.5%程度になるとみられ、これは米株式市場にとっては大きな売り圧力を与え、金曜日にはNYダウは981ドルの下げとなり2.82%、S&Pは2.85%、Nasdaqも2.55%と大きく下げ、今後の株式市場の行方の暗雲がより濃くなった印象です。週末にかけてゴールドもその影響を受けて値を崩し、ドル建てでは1930ドル、円建てでも8000円を割り込み、一週間のほぼ安値で終わりました。しかしここまでの一本調子の上昇を考えればこの下げはまだポジション調整の健全な動きの範囲を超えていないと考えます。逆に株価の大きな下げはゴールドにリスクオフの流れでより多くの資金の流れを呼び込むのではないのでしょうか。金曜日は恐怖指数VIXも急騰、今週の株式市場の行方に対する不安が膨らんでいます。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読み下さい。

金ETF証拠金取引|WEEKLY REPORT

【マーケット・トピック】

ゴールド以外の貴金属-シルバー 3

「シルバーの需給」

鉱山生産の規模でゴールドと比較するとゴールドが約4,000トンの鉱山生産に対して、シルバーは26,000トンと約6.5倍です。しかしシルバーの価格は2022年2月現在80分の1というレベルであり、希少価値としての比較を考えるとシルバーはゴールドにくらべて大きく割安の状態にあると言えます。もちろん、希少価値だけがそのものの価値を決めているわけではありませんが、需要面でのゴールドとの違いも大きなものです。2021年の需要全体で32,130トン。そのほぼ半分にあたる16,299トンが工業用の需要です。ゴールドの工業用需要は需要全体の1割にもなりません。シルバーは素材としての工業用需要が大きく工業用のメタルであり、ゴールドはそのままの形で保有する宝飾品を含む投資用のメタルであるということが言えます。

1. 鉱山生産

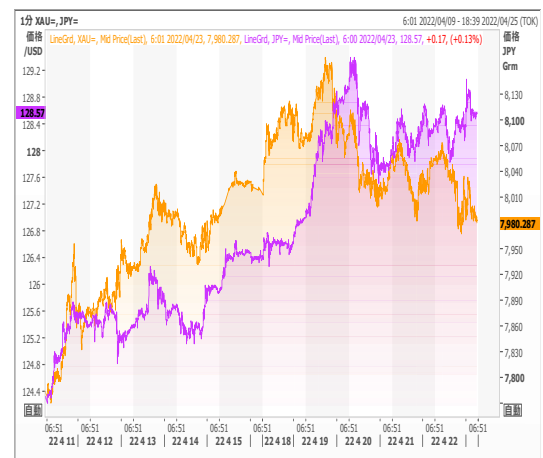
シルバーの主な生産地はメキシコやペルーなどの中南米と中国が大きく、最も大きい生産国はメキシコで2020年5541トン、続くペルーは3411トン、中国が3377トンとこの三か国でちょうど世界のシルバー鉱山生産の半分を占めます。日本はシルバーの輸入国ですが、日本に入ってきているシルバーは、主に、メキシコ、ペルー、韓国、そしてオーストラリアからです。日本のシルバーの供給は、総合商社がシルバー生産国から輸入する分（輸入塊）と、スマルターである日本の鉱山会社が輸入した銅鉱石や亜鉛鉱石から副産物としての彼らのブランドのシルバーを生産する「国内山物」があります。歴史的には住商がメキシコから、物産がオーストラリアから、日商岩井（現双日）がペルーからといった図式がありましたが、近年では輸入塊は、地理的に近い韓国からの輸入が増えています。韓国はシルバーの鉱山生産国ではありませんが、日本のスマルター同様、非鉄鉱石からの副産物としてシルバーを生産しており、その大きな部分が日本の商社を通じて日本のユーザーに使われています。韓国から来たシルバーが日本でペーストに加工され、それがまた韓国のソーラーパネルメーカーなどに輸出されるというシルバーの流れがあり、非常に興味深いものです。



Gold ETF残高とゴールド価格



米長期金利とゴールド



円建てゴールドとドル円

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読み下さい。

【ディスクレーマー（免責条項）】

本レポートは、本取引所が一般社団法人日本貴金属マーケット協会から提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、一般社団法人日本貴金属マーケット協会に帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

株式会社東京金融取引所

本レポートは、一般社団法人日本貴金属マーケット協会（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したものです。情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。本レポートを使用することによって生ずるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

【会社名】 一般社団法人日本貴金属マーケット協会（Japan Bullion Market Association）

【所在地】 〒103-0016 東京都中央区日本橋富沢町11-15-503

【URL】 <http://jbma.net>

【E-mail】 info@jbma.net

池水雄一（いけみず・ゆういち）プロフィール

1962年生まれ兵庫県出身。1986年上智大学外国語学部英語学科卒業後、住友商事株式会社入社、その後1990年クレディ・スイス銀行、1992年より三井物産株式会社で貴金属チームリーダーを務める。2006年よりスタンダードバンク東京支店副支店長、2009年に同東京支店で支店長に就任。2019年9月より日本貴金属マーケット協会（JBMA）代表理事に就任。一貫して貴金属ディーリングに従事し、世界各国のプリオン（貴金属）ディーラーでブルース（池水氏のディーラー名）の名を知らない人はいない。

最新情報は
ツイッターで

